

先人の技を知る

“江戸時代後期の離れ 保存・改修”



□ 欄間の釣り束・・・大梁を井桁に貫を組み吊る。



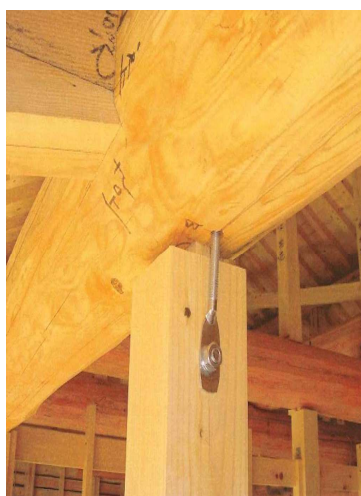
□ ばらした天井・・・現れた小屋裏

市の文化財保護委員をしていた時に、ご一緒だったYさんからご相談を受けた。

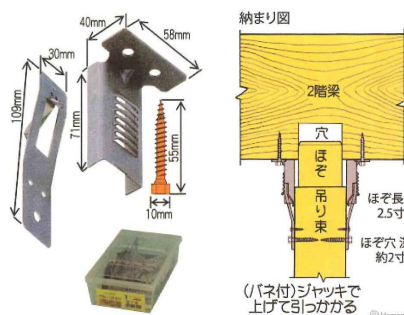
文化財級の主屋の離れを改修したいとの事で現地にお伺いした。建築は主屋同様“安政年間”であることをお聞きした。いろいろお話をお聞きすると“車椅子による自活”を想定されていた。玄関からの段差解消機設置、障害者向けの水回り諸室と共に、耐震、断熱性能等、数十年先を見越した計画がまとまった。

以前から出入りの棟梁により天井がばらされてから知った“隠された先人の技”が隠れていた。

文化財建造物に詳しい知人から“工法名”について正式名は不明だが、全く同じ仕事ではないが似た仕事を、ある地方の大工は、見た目から“ふんどし”と呼



□ 羽子板ボルトの施工



□ 吊り束用金物。



□ 添え板による施工

び、添え板のことを“ビンタ”と呼んでいることを知った。現代では羽子板ボルトや吊り束金物を使用しているが、“先人の仕事”では、再度高さ調整が必要になれば上部の貫材下に差し込まれている“楔”を出し入れすることで可能にしている。